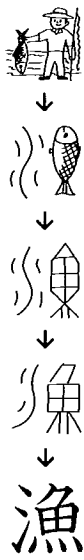


# 漁

四年

画数 14  
筆順 シ 洑 洑 漁  
オン ギョ・リョウ

成り立ち



河や海の意味を表した「シ」と、「魚(年112)」とを組み合わせで作った字です。

「河や海に出かけて「魚を取る」こと」を表した字です。この字の正しい音は「魚(ギョ)」ですが、「鳥や獣を取る」ことを「獵(リョウ)」と言いましたので、「魚を取る」ことを表した「漁」も、「リョウ」と読むようになりました。

使い方

▽漁村に住む漁師さんたちは、魚を取るのが仕事です。たくさん魚が取れた時は、大漁旗を立てて祝います。▽ぼくは、このあいだ、おとうさんにつれられて、つりに行きました。漁船ののって沖にこぎだした時は、ちよつと船よいして気分が悪くなりましたが、魚が取れた時は、とてもおもしろいと思いました。

熟語例

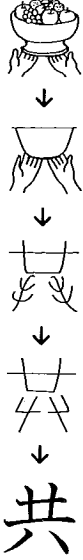
- ▽漁村(おもに魚を取ることで、生計を立てている村)
- ▽漁師(魚を取って生計を立てている人)
- ▽漁夫(「漁師」と同じ意味です。「漁夫の利」といえば、他の者のあらそいにつけこんで、その利益を横からうばい取ることです。むかし、中国の漁師が、鳥と貝が争っているところへ来て、両方ともとらえてしまった、という故事から来たことばです。)
- ▽漁船(魚を取るための船)
- ▽大漁(魚がたくさん取れること。)
- ▽不漁(魚があまりたくさん取れないこと。)
- ▽禁漁(魚を取ってはいけないこと。「禁漁区域」などというふうにな、つかいます。)

# 共

四年

画数 6  
筆順 一 廿 共  
オン キョウ

成り立ち



大きなうつわの形を表した「廿」と、両手の形を表した「ハ」とを組み合わせて作った字です。

「両手を「いっしょに」そろえて大きなうつわをささげ、そなえる」ことを表した字です。

「いっしょ(とも)にする」という意味に使われて、「そなえる」という意味には「供(年860)」という字が作られました。

「共同」は、「なん人もで「いっしょ(とも)に」する」という意味のことばです。

使い方

▽むかしは、水道などはありませんでしたから、井戸をほって、何軒かの家で、共同で使いました。「井戸端会議」などということばも、そういうところから出来てきたことばです。▽わたしと大石さんとは、共通の趣味があります。それは切手を集めることです。二人とも、日本の切手だけでなく、外国の切手も持っています。集めた切手をくらべあうのが楽しみです。

熟語例

- ▽共同(なん人もの人で、いっしょにすること。)
- ▽共通(二人以上の人で、また、ふたつ以上のものごとで、どちらにもあること。)
- ▽共有(共同で持つこと。二人以上の人が、一つのものを持ちあうこと。「ぼくとおとうとは、一つの部屋を共有しています」などというふうにな、つかいます。)
- ▽共存(二つ以上のものが、同時に存在すること。「共存共栄をはかるうではありませんか」などというふうにな、つかいます。)
- ▽共栄(共に栄えること。)